

平成 31 年度学校経営計画

平成 29 年度～平成 31 年度

校番	10	学校名	広島県立尾道北高等学校	校長氏名	松井 太	全日制課程	本校
----	----	-----	-------------	------	------	-------	----

1 ミッション(地域社会における自校の使命)

「至誠一貫」の校是のもと、広く知性を涵養し、豊かな心と高い志を育むことによって、新しい時代を拓く人材の育成を図る。

2 ビジョン(使命の追求を通じて実現しようとする自校の将来像)

グローバル社会での活躍を期し、
 (1) 生徒が主体的に学ぶ力を育てる学校
 (2) 豊かな人間性を培い、社会の持続可能な発展に貢献するリーダーを育てる学校
 (3) 保護者・地域社会・国内外に開かれた教育活動を展開する学校

3 環境分析

(1)「課題発見・解決学習を推進し、主体的な学びを深める」ことについて

本校は、これまで「産業社会と人間」や「総合的な学習の時間」を中心に、生徒自らが将来の在り方・生き方を考えるキャリア学習を進めてきた。広島版「学びの変革」アクションプランの推進に伴い、平成 27 年から3年間、探究コアスクールの指定を受け、総合的な学習の時間の見直しや課題発見・解決型の授業開発などを進めるとともに、ICTを活用した授業への取組及び授業開発に力を注いできた。以上のことを踏まえ、今年度は①育成したい資質・能力の浸透を図ること ②主体的な学び、対話的な学び、深い学び等を促進すること ③カリキュラムマネジメントを組織的に展開することの3点に係る目標設定と行動設定をしたい。

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
授業評価、学校評価アンケートにおいてICTの活用による授業改善や業務改善がなされているかの問いに肯定的な回答をした割合	生徒評価 85% 教員評価 授業 86% 業務 85%	生徒評価 94% 教員評価 授業 88%, 業務 84%	生徒評価 92% 教員評価 授業 89.5% 業務 80.0%
HPを通じて研究成果を発信した回数	17 回	34 回	1 回

(2)「教科指導力の向上を図り、生徒の学力を最大限に伸ばす」ことについて

本校が長年取り組んできた目標設定は、今後もプロセス検証とし目標設定を維持していきたい。授業評価アンケートについては、昨年度は主体的な学びの出発点である生徒の「問う力」についての指標を取り入れた。今年度はそれに加えて生徒の「自己決定の場面」を増やし主体性、自立性を育てる方向で検討していく。また、グローバル人材の育成及び新しい大学入試問題への対応に関して、英語の4技能、特に話す力を育て評価する指導を行い、外部試験の受験と授業へのフィードバックを通じて、指導を促進する必要がある。

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
「この授業を受けて、課題を解決するために必要な思考力が高まりましたか」という生徒による授業評価アンケートの平均得点率	78.9%	83.1%	81.1%
年間の平均学習時間数(1年次生)	199 分	201 分	198 分
年間の平均学習時間数(2年次生)	200 分	220 分	203 分
年間の平均学習時間数(3年次生)	289 分	262 分	283 分
1年進研模試(7月・1月)の国・数・英の平均点偏差値	7月 57.4	7月 58.5	7月 55.4
	1月 60.6	1月 59.9	1月 56.3
1年進研模試(7月・1月)の国・数・英の平均点偏差値 50 未満の生徒数	7月 27 人	7月 18 人	7月 47 人
	1月 10 人	1月 12 人	1月 42 人
2年進研模試(7月・1月)の国・数・英の平均点偏差値	7月 60.6	7月 59.4	7月 58.7
	1月 60.6	1月 59.6	1月 58.9
2年進研模試(7月・1月)の国・数・英の平均点偏差値 50 未満の生徒数	7月 22 人	7月 13 人	7月 18 人
	1月 28 人	1月 25 人	1月 21 人
2年進研模試(1月)の理科・地歴の平均偏差値	理科基礎 64.7	理科基礎 59.5	理科基礎 63.0
	理科専門 56.2	理科専門 55.3	理科専門 56.7
	地歴 59.7	地歴 58.3	地歴 58.8
	公民 59.0	公民 57.9	公民 59.1
大学入試センター試験で全国平均(100 点換算)で5点以上上回った科目数	10/14	11/14	8/16

(3)「高い志や夢を持たせ、進路希望を実現させる」ことについて

ア 1・2年次からの高い志を持つ集団づくりなどの取組により国公立大学への現役合格率は 70%近い数字であり、広島大学・岡山大学への安定した合格者を出している。今年度も継続して、最難関大学への現役合格者も出しており、キャリア学習の成果を踏まえつつ、今後とも生徒の夢をかなえる組織づくりを進めていく。

卒業生に対する国公立大学合格者数の割合 (単位:%)

卒業生に対する国公立大学の現役合格者の割合 ()内は受験年度	平成 28 年 (29 年度)	平成 29 年 (30 年度)	平成 30 年 (31 年度)
	67.7	70.7	66.1

難関大学等及び広島大学・岡山大学の合格者数(現・浪) (単位:人)

	平成 28 年度卒 (29 年度)	平成 29 年度卒 (30 年度)	平成 30 年度卒 (31 年度)
難関大学・国公立医学部医学科・歯学部・薬学部合格者数(現・浪)	25 人	29 人	20 人
広島大学・岡山大学合格者数(現・浪)	39 人	29 人	27 人

イ グローバル人材の育成について

これまで、本校では1年次生を対象にオーストラリアへの短期留学を企画し、昨年度 32 名の生徒がプログラムに参加した。また、外国人講師による課題発見型英語研修であるエンパワメントプログラムに 53 名の生徒が参加した。さらに、国内外のグローバルな視点で構成されたその他の課外活動に 21 名の生徒が参加した。今後、SDGsの視点を踏まえ世界的な諸課題への関心を高め、グローバル社会に対応した人材を育成する必要がある。

また、特定の生徒のみが体験する異文化体験ではなく、全生徒が異文化を背景に持つ人と、英語を通じてコミュニケーションをとったり、課題解決に取り組む場面の設定を考え、今年度より海外への研修旅行を実施する。

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
グローバルな視点で構成された課外活動等に自らが進んで参加している生徒数	34 人	53 人	106 人

(4)「リーダーに求められる道徳性や社会性を身に付けた豊かな心を育成する」ことについて

例年、年間を通して約 90%のクラブがボランティア活動に参加し、目標値を達成してきている。今後も、道徳性や社会性を高める取組を、あらゆる教育活動を通して進めていき、外部の社会活動への参加も促していく必要がある。

ライフガイダンスルームを昼休憩に開設、するとともに、特別支援教育コーディネーターと養護教諭による相談日を6回開設、月1回「ライフガイダンスルームだより」の発行などの広報活動を定期的に行った。

今後も、命の大切さを学ぶ取組をさらに充実させるとともに、不登校生徒への予防措置と取組について、学校として組織的に知見を深めていく必要がある。

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
「生徒会活動・行事・LHRの中で、人としてのあり方生き方、命の大切さ等を学ぶ経験をした」という生徒へのアンケートの肯定的回答の割合	61%	64%	68%
部活動加入率	86.7%	85.8%	85.4%
「校内の清掃や美化活動に努めていると思いますか」という生徒へのアンケートの肯定的回答の割合	92%	87%	87%

(5)「地域社会に信頼される学校づくりを推進する」ことについて

入学者選抜志願者数については、定員割れの年もあり募集はやや不安定な面もある。市内中学校出身者は約 60%である。県東部の進学校としての本校の役割を考え、今後とも積極的に広報活動を展開し、生徒募集を強化する必要がある。今年度はこれまで非公開で実施していた文化祭の一般公開を行い、またオープンスクールにおいても在校生及びPTAとの対話的活動を重視している。

入学者選抜志願者数 (単位:上段は志願者数/定員, 下段は倍率)

()内は受検年度	平成28年 (29年度)	平成29年 (30年度)	平成30年 (31年度)
選抜(I)	71/60 1.18	59/60 0.98	83/60 1.38
選抜(II)	159/140 1.14	134/140 0.96	155/140 1.11

	平成28年度	平成29年度	平成30年度
ホームページの主たる内容(行事等)の更新回数	14.8回	15.6回	95回
「尾道北高だより『槇峰』」の発行回数	6回	8回	8回
該当中学校への本校情報提供の回数(出前授業含む)	年21回	年22回	年20回
8月のオープンスクールへの参加者	571名	558名	612名

(6)「働き方改革」について

時間外勤務が恒常的に発生していることや土日の部活動指導等, 教員の負担が多い現状に鑑み, 平成29年度から水曜日を定時退校日とし, 18時には全員退校すること, 部活動指導については, 土日のうち1日は練習日を設けないことを徹底してきた。昨年度は土曜教室を取りやめ, 職員の実質的な週休日を確保するとともに, 学校経営計画に本校としての目標設定をすることにより, かなり職員全体に浸透してきた。今年度は, 朝学や追試への取組を工夫していき, さらに実効ある働き方改革を推進する必要がある。

4 目標の設定

学校経営目標								
達成目標	評価指標	実績値			目標値	担当部等		
		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度			
1 課題発見・解決学習を推進し, 主体的学びを深める。								
1-1 生徒自身が学びを振り返ることができている。	授業評価アンケートにおいて, 「問う力」がついたと回答した割合	—	—	71.8%	80%	各教科 教育研究部		
	授業評価アンケートにおいて, 「自分で判断して家庭学習をする」と回答した割合	—	—	新規	70%			
1-2 産業社会と人間及び総合的な学習(探究)の時間を通じて, 課題解決や探究する態度を育てる。	生徒アンケートにおいて, 「より深く探究する意欲や態度が身についた」と回答した割合	—	—	新規	70%	教育研究部		
1-3 ICTを活用し, 深い学びにつながる授業を実施している。	ICTを活用して, 生徒の深い学びに繋げる授業ができた教員の割合			89%	90%	ICT推進委員会		
2 教科指導力の向上を図り, 生徒の学力を最大限に伸ばす。								
2-1 生徒が学習意欲を高め, 確かな学力を身に付けている。	1年進研模試(1月)国数英総合平均点偏差値	1月 60.6	1月 59.9	1月 56.3	61.0以上	1学年		
	2年進研模試(7月・1月)の国数英総合平均点偏差値	7月 60.6	7月 59.4	7月 58.7	60.0以上	2学年		
		1月 60.6	1月 59.6	1月 58.9				
	1年進研模試(7月)国数英総合偏差値に対して, 1年1月, 2年1月の偏差値	1年 +3.2	1年 +1.4	1年 +0.9	+3.0以上	進路指 導部		
	2年 +1.9	2年 +2.2	2年 +0.4					

2-2 英語の4技能重視も含む新しい大学入試への対応ができています。	1年次GTEC(12月実施)	—	—	83.2%		700点以上の生徒80%以上	進路指導部 各教科
	2年次GTEC(12月実施)	—	—	新規		700点以上の生徒85%以上	
	実用英語技能検定2級以上(2,3年)	26%	31%	39.3%		35%	
	大学入試センター試験で全国平均を5点以上上回った科目数	10/14	11/14	8/16		全科目	
	センター試験で650/900点以上の生徒の割合	—	—	35.6%		40%	
3 高い志や夢を持たせ、進路希望を実現させる。							
3-1 生徒が高い目標を持ち、その目標を維持できている。	難関大学・国公立医歯薬学部・広島大学・岡山大学合格者数	64人	58人	47人		65人	進路指導部
3-2 新しい大学入試において、主体性の評価も含めた多面的・総合的な評価への対応ができています。	外部のセミナー、コンテスト、コンクール等へ参加(応募)した生徒(1,2年)の割合	—	—	46.8%		60%	進路指導部 各学年
4 リーダーに求められる道徳性や社会性を身に付けた豊かな心を育成する。							
4-1 自律的で社会に貢献する態度(リーダーシップ・ボランティア精神など)を身に付けている。	文化祭・体育祭等の行事に当事者意識を持って参加した生徒の割合	—	—	新規		70%以上	生徒指導部
	年間を通して、1回以上校外外のボランティア活動に参加した人数	460人	634人	634人		600人以上	
4-2 生徒一人ひとりの学校生活が大切にされ、相談しやすい体制が構築されている。	「悩みごとを気軽に相談できる場が校内にありますか」という生徒へのアンケートの肯定的回答の割合	71%	73%	77%		75%	健康教育部
5 社会に信頼される学校づくりを推進する。							
5-1 中高の相互理解を深める取組がなされ、中学校や地域社会への説明責任が果たされている。	選抜(Ⅱ)入試の志願者倍率	1.14倍	0.96倍	1.11倍		1.15倍以上	総務部
6 働き方改革について							
6-1 限られた時間で成果をあげる工夫がされている。	時間外勤務時間を1月について100時間未満の割合及び1年について720時間以下の割合	—	—	新規		100%	管理職

5 行動計画

学校経営目標			
達成目標	本年度行動計画	中期行動計画	担当部等
1 課題発見・解決学習を推進し、主体的学びを深める。			
1-1 生徒自身が学びを振り返ることができている。	○生徒の主体的な学び、深い学びを育成する授業を実践する。 ○「問う力」を育成し、授業評価で検証する。	○主体的な学びの在り方を教科内で企画・検討・実施し、カリキュラム開発を行う。 ○生徒が自己を振り返り、主体的に行動することができる。	カリマネ委員会・教育研究部 各教科
1-2 産業社会と人間及び課題研究等を通じて、課題探求力を育てる。	○カリキュラムマネジメント委員会を月2回開催し、目標とする資質・能力の育成について評価し、機能的なカリキュラムの運用について検討する。 ○思考力育成をめざし、外部試験GPS-Academicの受験(1・2学年)を実施するとともに、その職員研修を企画する。	○カリキュラムマネジメントを組織的に進める。教育内容全体について評価を行い、改善を図るPDCAサイクルを確立する。 ○思考力育成を図る授業を創造している。	
1-3 ICTを活用し、深い学びにつながる授業を実施している。	○ICT環境の整備を進め、効果的な活用による授業改善や業務改善を進める。 ・すべての教職員がICTを活用した授業を実践する。	○すべての教職員がICTを効果的に活用し、生徒の主体的な学びを育成するための授業を実践するとともに、教材のデジタル化、共有化を積極的に進める。	ICT推進委員会
2 教科指導力の向上を図り、生徒の学力を最大限に伸ばす。			
2-1 生徒が学習意欲を高め、確かな学力を身に付けている。	○教科指導力を向上させる。 ・進研模試(7・1月)を指標とし、習熟度に応じた指導を行い、PDCAサイクルを機能させ、目標管理によって指導の改善を図る。 ・模擬試験結果分析を行い、その分析内容を授業、定期考査問題の作成等につなげる。(年3回)	○学力各層の生徒の課題を明らかにして必要な教科指導体制を確立する。	進路指導部 各教科
	・センター試験分析(5・2月)を行い、教科指導力の向上につなげる。 ・入試問題研究を行い、その成果を授業、入試問題セミナー、定期考査問題の作成につなげる。(7月以降)	○入試問題分析のデータベースを蓄積し、入試問題分析集を作成する。入試の指導法を教科全体で共有する組織体制を構築する。	
2-2 英語の4技能重視も含む新しい大学入試への対応ができている。	○英語の外部試験GTEC等の受験に向けて、日常的に4技能育成の指導を計画的に行う。	○英語の4技能育成に向けた指導体制を構築する。	外国語科 進路指導
3 高い志や夢を持たせ、進路希望を実現させる。			
3-1 生徒が高い目標を持ち、その目標を維持できている。	○探究活動、キャリア学習を充実させる。 ・「産業社会と人間」(1年次)「エクスプローラーセミナー」では、地域やグローバルに関する課題を発見する。 ・「産業社会と人間」(2年次)では、生徒の学部・学科研究を行い、進路目標を設定させる。 ・「課題研究セミナー」(2年次)では、探究的・体験的な活動を実施し、具体的な研究テーマを設定させ、探究させる。3年次には探究活動をまとめた成果発表会を実施する。	○「産業社会と人間」、「エクスプローラーセミナー」、「課題研究セミナー」などの探究活動やキャリア学習を通して、主体的な学習者を育成し、高い志を持たせる。	教育研究部
3-2 新しい大学入試において主体性の評価も含めた多面的・総合的な評価への対応ができている。	○外部団体が実施するセミナーやコンテストを集約し、各学年、分掌と協力して生徒に提示していく。 ○各個人の活動を振り返り、ポートフォリオ化を進める。	○各教科及びキャリア学習を通して探究活動を進め、主体的な学習者を育成し、高い志を持たせる。 ○JAPAN e-Portfolioへの適切な接続体制を構築する。	各学年

4 リーダー4 リーダーに求められる道徳性や社会性を身に付けた豊かな心を育成する。			
4-1 自律的で社会に貢献する態度(リーダーシップ・ボランティア精神など)を身に付けている。	<p>○マナー指導を充実させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通マナー, 相手を思う気持ち, 尊重する態度を身に付ける。 ・生徒会(交通委員会)が中心となり, 前・後期各2回以上登校指導を行う。 ・生徒主体の活動を増やす。 ・PTA(健全育成委員会)と協力し, 交通マナー向上を目的とした下校指導を行う。 	○生徒会, 教職員, 保護者の協力体制のもとで規範意識を高める指導体制を確立する。	生徒指導部
	○全校生徒に対して, 個人, 団体で年に1回以上のボランティア参加を促す。	○全校体制で校内・校外でのボランティア活動に参加し, 地域社会への貢献を果たす。	
4-2 生徒一人ひとりの学校生活が大切にされ, 相談しやすい体制が構築されている。	<p>○教育相談体制を充実させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期及び随時の特別支援教育会議・プロジェクト会議を開き, 情報の共有や対応の協議をする。 ・スクールカウンセラー(SC)を効果的に活用(面談・研修会)し, 生徒・保護者・教職員への支援を行う。 <p>○不登校予防を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心理検査活用, 面談実施から要支援生徒の早期発見・対応につなげる。 ・構成的グループエンカウンター(SGE)によるクラスづくりワークを設定し, 新入生が早く高校生活やクラスに慣れるようにする。 	○関係機関と連携し, 学校に適応しにくい生徒を早期から, プロジェクトチームを立ち上げ組織的に支援する体制を確立する。	健康教育部
5 社会に信頼される学校づくりを推進する。			
5-1 中高の相互理解を深める取組みがなされ, 中学校や地域社会への説明責任が果たされている。	<p>○生徒募集活動を充実させる。</p> <p>〈説明会等〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学生の訪問受け入れ(5~6月, 体育祭) ・文化祭の一般公開(6月) ・中学校主催の進路説明会(6~10月) ・中学校への訪問(6月~2月) ・オープンスクール(8月) ・本校主催の入試説明会(10月) <p>〈資料等〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報用資料(学校パンフレット等)の充実を図る。 	○本校の広報戦略を整理し, 組織的体系的な広報活動を確立する。	総務部
6 働き方改革について			
6-1 限られた時間で成果をあげる工夫がされている。	○時間外勤務時間を縮小する。	○時間外勤務に係る上限規制に従うために業務削減を行う。	管理職